

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善と充実」

I. 学校名 石狩市立浜益小学校 【石狩管内】



II. 研究の概要

1 研究主題

「自分の考えと友だちの考えをつなげて、思考が深められる子どもの育成」
国語科授業のユニバーサルデザイン化を通じたアクティブ・ラーニングの探求

2. 研究仮説・研究内容

(1) 研究領域・・・ 国語

(2) 研究仮説

仮説1	子どもが楽しいと感じる活動から生まれる、論理的なことばの学び（指導事項）を授業のねらいとして考え、そのねらいに沿って授業を焦点化することで、児童は自分の考えを持つことに意欲的になり、一人ひとりの多様な考えを導き出すことができるだろう。
仮説2	子どもが思わず参加してみたいくなるような楽しい学習活動（授業展開）を考え、論理的思考力を高めるために、指導過程を工夫したり、教材・資料を視覚化したりすることで、児童は教え合い、学び合うことを喜び、協働的に学習をすすめていくことができるだろう。
仮説3	子どもたちの人間関係を育むような視点から、ことばの学びを導入して論理的思考力を高め、確認・批判・評価・鑑賞等で考えを共有化することで、児童は自分の考えと友だちの考えをつなげた多様な意見を発言し、思考を深めることができるだろう。

(3) 研究内容

内容1	論理的なことばの学び（指導事項）を授業のねらいとした授業の焦点化「シンプル」
内容2	論理的思考力を高めるための授業展開の工夫と、教材・資料の視覚化「ビジュアル」
内容3	ことばの学びの導入によって高めた論理的思考力の共有化「シェア」

3. 研究の年次計画

令和2年度（2年次）：授業実践の充実	
ことばの学びの導入によって高めた論理的思考力の共有化	
◇重点①論理的思考力を高めるための授業展開の工夫と、教材・資料の視覚化（ビジュアル）	
・ 既成概念にとらわれない、指導計画のユニバーサルデザイン化	
・ 学びの見える化を意識した教材・資料の視覚化	
◇重点②ことばの学びの導入によって高めた論理的思考力の共有化（シェア）	
・ 確認・批判・評価・鑑賞する共有化の確立	
・ 異学年の「縦方向の協同」を意識した共有化の工夫	
・ 話すスキルを身につけるための手立ての確立（教師のファシリテーション力の向上）	

4. 具体的な実践例（自主公開研究開会から）

第5・6学年 国語科学習指導案

○日時： 令和2年7月17日（金） 5校時 13:25～14:10

○児童： 5年 男子1名 女子3名 計4名 6年1組 女子1名 計1名

○指導者： 吉弘 文人教諭

第5学年

①単元名 「本は友達」

②教材名 「作家で広げるわたしたちの読書」
「カレーライス」

③本時の目標 7/17（金）5校時
「カレーライス」を読み、辛さの表現の工夫と、その効果について考え、作品の魅力について話し合ってみる。

④本時の展開 3/5

第6学年

①単元名 「本は友達」

②教材名 「私と本」
「森へ」

③本時の目標 7/17（金）5校時
「森へ」を読み、ノンフィクションならではの表現の工夫について考え、作品の魅力について幅広く考えてまとめる。

④本時の展開 3/5

教師の動き・評価	学習活動・研究内容	段階	教師の動き・評価	学習活動・研究内容
○前の時間に学習したことをふりかえります ○前時に使用したのセンテンスカードを提示する ○登場人物の心情はどのように変わりましたか？ ・ひろしは？ ・お父さんは？	「ふりかえる」シートをはる センテンスカード	導 導 入 入	○前の時間に学習したことをふりかえります ○前時に使用したセンテンスカードを提示する ○読み進めていく上で大事なキーワードには、どんなキーワードがありましたか？ ・時間 ・生命 ・自然	「ふりかえる」シートをはる センテンスカード
○今日も考えて、深めて、まとめます。 ○ひろしを子ども扱いするお父さんのと、子ども扱いされてイライラするひろしのセンテンスカードを提示する	「考える」「深める」「まとめる」シートをはる 子ども扱いされるひろしのセンテンスカード お父さんにイライラするセンテンスカード Which	展 展 開 開	○今日も考えて、深めて、まとめます。 ○比喩表現を表すセンテンスカードと筆者の心情を表すセンテンスカードを提示する	「考える」「深める」「まとめる」シートをはる 比喩表現を表すセンテンスカードと筆者の心情を表すセンテンスカード Which
「ひろし」は子ども？それとも大人？		前 前	作者は森がこわい？それともこわくない？	
○今日の「考える」です。ひろしは子どもで			○今日の「考える」です。作者は森をこわが	

<p>しょうか？それとも大人でしょうか？</p> <p>考える音読で、子どもぼいときは子どものジェスチャー、大人っぽいと思ったら大人のジェスチャーをします。</p> <p>○ノートに自分の考えをメモしたら意見を出し合います。</p>	<p>考える音読 ジェスチャー読み</p> <p>○意見を出し合う。</p> <p>FT <input type="text" value="G「子どもっぽい」ところと「大人っぽい」ところをたくさん見つける"/></p>	半	半	<p>っているでしょうか？それともこわがっていないでしょうか？</p> <p>考える音読でこわい時はこわいジェスチャー、こわくない時はこわくないジェスチャーをします。</p> <p>○ノートに自分の考えをメモしたら意見を板書します。</p>	<p>考える音読 ジェスチャー読み</p> <p>○様々な角度からセンテンスカードを読んでメモを板書する</p> <p>FT <input type="text" value="G「こわいところ」「こわくないところ」をたくさん見つける"/></p>
<p>○今日の「深める」です。ひろしは「もう子どもじゃないんだから」というセリフは必要でしょうか？それとも必要ないでしょうか？</p>	ゆさぶり	展	展	<p>○今日の「深める」です。作者はどこまでこわくて、どこからこわくなくなったのでしょうか？</p>	ゆさぶり
<p>セリフ「もう子どもじゃないんだから」は必要？それとも必要ない？</p>		開	開	<p>作者はどこまでこわくて、どこからこわくなくなったのでしょうか？</p>	
<p>○ノートに自分の考えをメモしたら意見を出し合います。</p> <p>○「中辛」という言葉でひろしもお父さんも変わることを確認する</p>	<p>○意見を出し合う。</p> <p>FT <input type="text" value="Gこのお話の秘密を見つかる"/></p>	半	半	<p>○ノートに自分の考えをメモしたら意見を板書します。</p> <p>○だんだんこわくなくなっていったのですね。こわさメーターで考えます</p>	<p>○予想を板書する。</p> <p>FT <input type="text" value="G森の不思議をたくさん見つける"/></p> <p>○こわい気持ちのレベルメーターを提示</p> <p>○メーターを動かす</p>
○深めたことをまとめ				○深めたことをまとめ	

<p>ます。</p> <p>○お父さんは、ひろしが「中辛」のカレーを食べていることを知って、ひろしの見方が変わりますね、「中辛」という言葉が「大人」を表しているんですね。</p> <p>みなさんはノートに詳しく書いてください。</p>	<p>板書する</p> <p>「大人」とは書いていないこと</p> <p>「中辛」が「大人」を表していること</p> <p>お父さんも「中辛」でひろしが大人っぽくなったことに気づくこと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>●具体的評価規準</p> <p>「中辛」という言葉が「大人っぽさ」を表していることをもとに、この作品の面白さをまとめている。</p> </div>	<p>ま ま</p> <p>と と</p> <p>め め</p> <p>る る</p>	<p>ます。</p> <p>○作者は森に入った時にはこわさを感じていましたね。それがだんだんこわくなって、最後にこわさすっかり消えています。そのこわさの消え方と、その時の森の様子をまとめます。</p> <p>ノートに詳しく書いてください。</p>	<p>レベルメーターと、そのレベルメーターがついたセンテンスカードを順に提示して、こわさが消えていく様子と、そのときの森の様子を視覚的にわかるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>●具体的評価基準</p> <p>比喩表現から読み取れる作者の心情の変化をとらえて、この作品の魅力というべき、森の中を進んでいく感覚をまとめている。</p> </div>
---	--	---	---	--

⑤単元の具体的評価規準

紹介カードを基に作家と作品、特徴的な表現について、感想を交流することで、選書の方法など、読書のしかたについての考えを広げている。

⑤単元の具体的評価規準

本を選んで、内容やテーマ、特徴的な表現などについて、紹介したいことを明確にしてブックトークをしている。

5. 研究の成果と課題

① 成果

- ア Which型課題からゆさぶり発問への流れで子どもの思考がぐっと深まる等、Which型課題の効果については、十分に確認された。今後は、前半の発問をWhich型課題で子どもたちの意見を拡散させ、後半の発問をWhat型やWhy型にして、さらに深い学びへとつなげていきたい。
- イ 感情メーターや表情カードなど、「見える化」の取り組みは素晴らしい実践が見られ、大きな成果をあげることに繋がった。
- ウ ファシリテーションを意識した授業づくりから、児童が「話したい」「議論したい」という思いを強く持つようになった。

② 課題

- ア 教師のファシリテーション力については、理論研等を行いつつ、さらに研鑽を高めていく必要がある。
- イ 『書いてから話す』授業から『話してから書く』授業へを合い言葉にした授業づくりを、来年度の重点とする。この取り組みに付随して、ファシリテーションの実践、教師のファシリテーション力の向上も追究でき、Which型発問から、Why型発問、What型発問へのレベルアップも見えてくると考える。
- ウ スモールステップによる「指導過程のユニバーサルデザイン化」という考え方から、UDL（ユニバーサルデザイン・フォー・ラーニング）の考え方に切り替えていくことも視野に入れたい。